

人生にとって「受験勉強」とは何か(2)

- 「受験勉強」で、「自律的に活動する能力」を身につけよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

新年明けましておめでとうございます。

1. 本日の放送番組のねらい

(1)12月29日の放送で、次のようなお話をさせていただきました。

受験勉強の目的は、もちろん希望校への合格ではあるが、それだけではない。そこで、長い人生にとって「受験勉強とは何か」について、より深い意味を考えたいと思う。

学校と呼ばれるところで勉強する内容で、世の中に出て要らないものは一つもない。すべて大切なものばかりである。

その学校で勉強したことの中で不確かであったところを、受験勉強を通じて100%身につけ、確かなものにした上で、上の学校に進学すること。

つまり、受験勉強は、世の中に出て一生涯使える基礎知識を身につける上で意味がある。

(2)2008年の第1回目となる本日の『開倫塾の時間』では、「受験勉強」のもう一つの意味、「自律的に活動する能力」を身につけることについて、皆様とご一緒に考えてみます。

2. 受験勉強で、「自律的に活動する能力」を少しでも身につけよう

(1)間近に迫った入試の受験には、様々な困難が待ち受けています。

例えば、得意分野をもっともっと伸ばして、よい点数を取らなければならない。不得意分野を少しでも克服して、「失点」を防がねばならない。風邪をひいたり、インフルエンザに感染してはならない。1日は24時間。時間がどんどん過ぎ入試日が迫っているのに、得点が一向上がらない。風邪をひいて熱が出てしまい、頭がフラフラする。経済的に余りお金のかかる学校には行けない。しかし、奨学金をもらうほどの成績が今は取れていない。

このように、一人ひとり異なる様々な困難を抱えながら、すべての受験生が受験勉強に臨んでいるといってもよいと考えます。

(2)このような中で、受験勉強は、最終的には自分の力で成し遂げなければなりません。病気にも自分の力で打ち勝ち、受験当日を迎えるようにしなくてはなりません。つまり、様々な困難を乗り越え、最終的には自分自身の力で成し遂げなければならないのが受験勉強であります。

「自分の未来を自分で切り開く力」「自己責任」「自助努力」の力が求められるのが、受験勉強です。また、一心不乱に勉強すればするほど成績はどんどん上がりますので、努力はかなり報われるということを実感できるのも受験勉強です。怠け者には福が来ないということを知るのも受験勉強です。

(3)このように、受験勉強を通じて、集中する力、困難を乗り越える力、自分の怠惰な心に打ち勝つ力、克服心が、少しではありますが養えます。

自分の人生は自分で切り開く以外にはないと、人生を少し知ることのできるのも受験勉強です。

(4)広い展望の中で人生を考え、高い志(こころざし)を持って生き、その中で次の学校に行ったらこのようなことをしようと十分考えた上で受験勉強をすると、それは「自覚」を持って勉強することになります。すると、受験勉強をするのは自己実現のためであると考えますので、いくら勉強しても苦しいことはなく、むしろ受験勉強ができて幸せであると喜びになります。

3. おわりに

(1)「志(こころざし)の高さ」は、「自分自身を律する、つまり自律的に活動する能力」を育てるものでもあります。

(2)「執念」や「集中力」を持ってものごとに対処できるのは、自分自身を律することができるからであります。

(3)「志(こころざし)」を高く持って行う受験勉強は、自分を鍛えます。特に、自分自身を律する、コントロールしながら行動する能力、つまり「自律的に活動する能力」を鍛えます。

(4)ただし、余りにも自分自身を追い詰めすぎるとストレスがたまり、それが爆発すると他人に迷惑をかけることにもつながりますので、ストレスの解消方法を自分なりに持ち続けることも「自律的に活動する能力」に含まれます。

(5)高い志(こころざし)を持って、今年1年素晴らしい年をお過ごしになるよう、心からお祈り申し上げます。

(6)ただ、一番大切なのは、皆様と御家族の健康(健康には、身体の健康と心の健康の2つがあります)です。

くれぐれも健康を大切にしながらお過ごし下さいますよう、お祈り申し上げます。

本年もどうかよろしく願いいたします。

以上